

ドイツー環境と健康のまちづくり

担当教員名 辻 英史・朝比奈 茂

1 コースの概要

日 程	2014年3月9日～16日
場 所	ドイツ（フランクフルト・アム・マイ ン～ライン・ルール地方）
参加人数	21名

2 コースの目的

「環境大国」として知られるドイツ。そのまちづくりの現状を学び、日本への応用の可能性について考えます。

今回は、とくに地域の再開発をテーマとして訪問先を選びました。さらに、エネルギー・防災・健康といった日本でもアクチュアルな問題にも注意を向けました。

3 事前学習

計6回実施しました。第1回ではドイツの歴史や現状についての概要を（11/9）、第2～4回では訪問先の都市および施設の解説を（11/27、12/14、2/4）講義形式で聞いたのち、参加者は各自の関心に基づいてテーマを選び、調べた内容をレポートにして提出します。さらに、レポートをもとにグループワークをおこなって知識と理解を深め、第5回ではその成果を口頭発表しました（2/20）。第6回では、グループごとに訪問先での質問事項を用意し、発表しました（2/26）。

4 行程

1日目

成田空港集合、KLM オランダ航空にてアムステルダム空港経由フランクフルト空港着、バスで宿泊先のユースホテルへ。

2日目 フランクフルトのまちづくり

大都市フランクフルト市の発展政策について、都心および社会問題多発地区の再開発・外国人市民の統合政策に関して市役所の担当者からレクチャーを聞き、続いて実際の現場見学をおこないました。

訪問先① フランクフルト市役所

訪問先② フランクフルト中央駅前再開発地区

訪問先③ フランクフルトの社会都市「ガルス」

3日目

フランクフルトからボン市に移動し、エネルギー政策と防災対策に関わる国の役所を訪問しました。

訪問先④ 連邦ネットワーク監督庁

電気だけでなくガス、インターネットなど、あらゆるネットワークを管理する連邦の役所で、ドイツのエネルギー政策、特に電力ネットワークの現状と将来についての話を聞きました。

訪問先⑤ 連邦危機管理庁

自然災害から原子力事故まで、広域に被害が及び災害の対策を準備し、救助の指揮に当たる連邦の役所で、ドイツの防災の仕組みについて、災害救助にあたる専門組織である技術支援機構からも説明がありました。

4日目 ルール地方

石炭と鉄鋼生産の中心地としてドイツの経済を支えたルール地方の歴史と現状について学びました。

訪問先⑥ ドイツ鉱山博物館

炭鉱の構造、石炭の採掘と運搬、そこでの労働の様子について実物と同じ坑道の中に入り、説明を聞きました。

訪問先⑦ クルップ博物館

エッセンで製鉄所を設立し、世界を代表する製鉄会社の経営者となったクルップ一族の邸宅を訪問しました。

訪問先⑧ ツォルフェライン炭鉱・ルール博物館

1986年まで使われていた炭鉱の施設が世界遺産としてそのまま保存されており、その一部であるルール博物館で、ルール地方の歴史、文化、日常生活、環境問題など、さまざまな発展の模様について解説を聞きました。

5日目 エムシャーパークの地域再開発

ルール地方の中心部に位置し、現在は大規模な再開発がすすめられているエムス川流域一帯（エムシャーパーク）を視察しました。

訪問先⑨ ボットロップ市産業センター

炭鉱都市から再生可能エネルギーへと転換を図るボットロップ市の温暖化ガス削減プロジェクトについて、市長からレクチャーを聴きました。

訪問先⑩ エムシャーパークの各施設

炭鉱関連施設の観光資源としての再開発の例として、ボタ山に作られた展望台や浄水場跡の公園を見学しました。また、エムス川の再自然化プロジェクトについて、実際に作業がおこなわれている現場でレクチャーを聞きました。

6日目

訪問先⑪ サッカークラブ・バイヤー・レーバークーゼン見学



ツォルフエライン炭鉱



フランクフルト・ローマー広場



テトラエーダー展望台にて



レーバークーゼン・スタジアムにて

ケルン市に移動し、オプション・プログラムとして、近郊のレーバークーゼン市にあるブンデスリーガを代表する強豪チームのスタジアムおよびトレーニング・リハビリ施設を見学し、ドイツ社会におけるスポーツのあり方を学びました。

7日目

ホテルからバスにてケルン・ボン空港へ。KLM オランダ航空にてアムステルダム空港経由日本へ。翌日早朝成田空港に着きます。

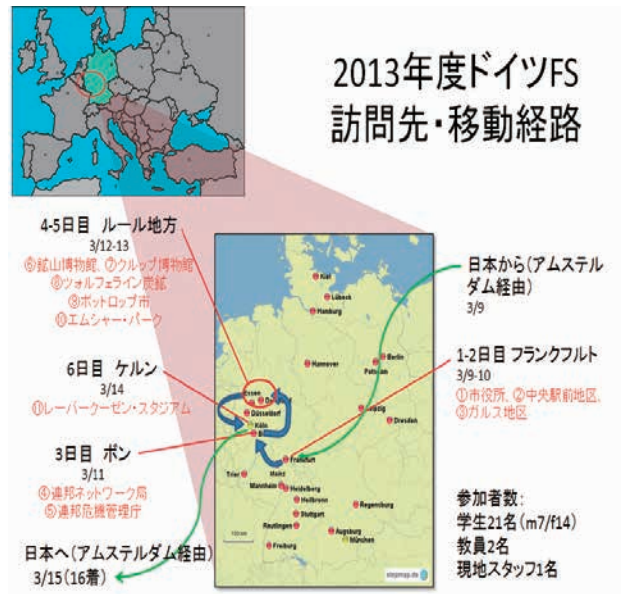
5 事後学習

帰国後1回開催しました(4/3)。グループごとに各訪問先で得た知識や印象を整理し、各グループ30分で報告します。その後最終レポートを提出しました。

6 雑感

ポスト工業化時代の地域発展や再開発、エネルギー問題、防災、さらに健康とスポーツに至るまで、ドイツが取り組んでいる課題は、日本と多くの部分で共通しています。しかし、このFSで見えてきたように、試みられている対策は2つの国でかなり違う。そのことを理解するためには、ドイツだけでなく、日本についても、社会の過去から現在までのあゆみの特質を理解することが必要です。

参加者の皆さんがこのFSでの体験を、今後の学習に活かしてくれることを望みます。



学生の声

「ドイツFSを体験して」



2年 小林美稀

私はドイツの都市の再開発について学びたいと思い、このFSに参加しました。事前学習では、テーマ別のグループになり学習をして知識を得たうえでドイツへと行きました。

このFSはもちろん自分の興味関心に対して学べるだけでなく、その他の多様なテーマについて、お話を伺ったり、町を歩いて体験してみたりして体験することができました。都市再開発については実際にお話を伺い、また街を歩いて日本との比較をしたり、自己学習では気づくことの出来なかった違いを目で見て理解することができました。ほかに印象に残っていることは、ドイツの有名なサッカークラブに行って、施設を見学したりスタジアムに入れたことです。普通の旅行ではなかなかできないことを出来るのがとても良いと思いました。

歴史や文化、自然などドイツの魅力はたくさんあり、このFSではそれを身をもって体験することができると思います。ドイツについて知りたい人はぜひ行ってほしいです。